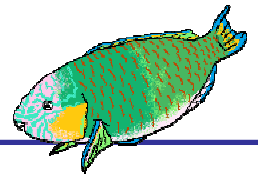
川平より さかなのおはなし

第1回：八重山のイノーイユ漁獲量



2012年12月1日　発行

沖縄県水産海洋研究センター石垣支所では，八重山で獲れる魚の調査をしています．

当支所では，この「**さかなのおはなし**」を通して，調査結果などの情報を浜の皆さんに提供していたいと思います．まず第１回は，八重山で獲られているイノーイユ（沿岸性魚類）の漁獲量の推移についてです．

Q. 八重山で一番獲られている魚

A. 1位はオオバチャー！

※県漁連出荷分も含む　　セリ名称別年間漁獲量（トン）

セリ名称	和名	2007	2008	2009	2010	2011
オオバチャー	ナンヨウブダイ	26.2	28.0	27.3	27.6	25.3
クチナギ	イソフエフキ	23.8	23.5	20.0	18.9	18.0
エー小	アイゴ	11.4	16.2	14.2	10.6	10.0
赤仁	スジアラ	19.9	19.1	13.1	12.0	9.9
タマン	ハマフエフキ	12.5	17.4	17.0	13.1	9.8
タコクェー	ナミハタ	12.5	11.9	10.9	9.7	9.2
ミミジャー	ヒメフエダイ	7.4	6.8	4.8	4.7	4.9
マクブ	シロクラベラ	4.0	4.2	3.4	3.2	2.7

ずっと水揚げが多かったクチナギは2007年以降2位に・・・

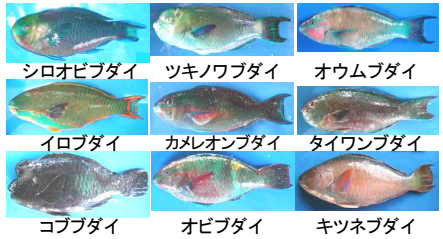
漁獲量が多い種を個別に見ていくと，この5年間であまり漁獲量が変わっていないのは，オオバチャーとエーグァーくらいで，他の魚種では皆減少傾向にあります．特に減り方が急なのは，クチナギと赤仁，ミミジャーです．漁獲量は，単純に獲ってきた魚の量なので，獲る人や回数が減ればその分減ります．ですから，漁獲量だけで資源が減ったとか増えたとか判断するのは難しいですが，減少の原因は**卵を産む親の獲りすぎ**や，サンゴ礁をはじめとした**環境の悪化**であると考えられています．

そこで八重山漁協では，産卵場の保護区と，小型魚に対する漁獲制限を実施し，資源の回復に向けた取組をスタートさせました．水産海洋研究センター石垣支所では，この取組の効果についても研究しています．

Q. 魚を測って何を調べているか？

A1. 細かい魚種別漁獲量が分かります

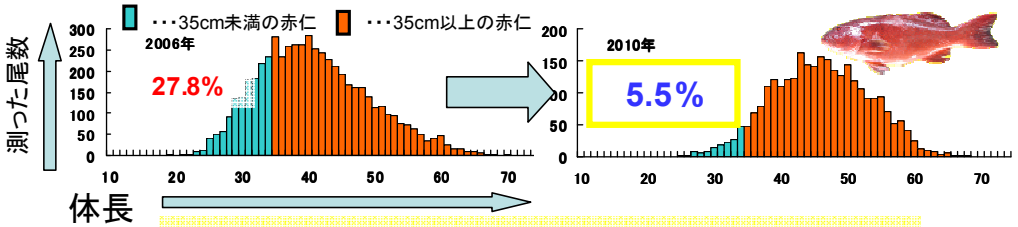
水揚げされる魚の種類を記録していくことで，漁協が整理している「セリ名称」ごとの年間漁獲量のデータを「和名」ごとの漁獲量のデータに振り分けることができます．例えば，セリ名称「ブダイ」に含まれる魚種は，**28**種類もあります．



なぜ種類ごとの漁獲量が重要かというと，例えば「●●ブダイ」の漁獲量が減っても，それを補う形で「○○ブダイ」を多く獲るようになった場合，セリ名「ブダイ」だけでは，「●●ブダイ」の減少が分かりません．

A2. サイズ別の漁獲量に変換しています

水揚げされる魚の体長を記録していくことで，サイズごとの漁獲量を計算することができます．これは，赤仁，マクブなどで実施している体長制限の達成状況を調べるのにも役立っています．



2007年から始めた体長制限により，赤仁では小型魚の漁獲が大きく減りました！

沖縄県水産海洋研究センター石垣支所　石垣市字川平828－2　電話：0980-88-2255（担当：秋田）